

雑誌記事月録 —1976年6~7月号—

一般

特集	雑誌名	月号
アメリカの音楽事情	音友	6
世界の名演奏家1(ピアニスト/オーケストラ他)	音現	6
初心者のためのショパン	ムジカ	6
ウィーンは生きている(音楽地図付)	音友	7
世界の名演奏家2(指揮者/バイオリニスト他)	音現	7
バッハ入門/バッハのポリフォニーその他	ムジカ	7
座談会・インタビュー		
藤原義江の遺したものを/福原信夫・池田圭・吉田昇	音友	6
続・日本の音楽家訪問/永富和子(ピアニスト)	//	6
"/奥田良三(声楽家)	//	7
現代における演奏と演奏家1/柴田南雄・武田明倫	音現	6
"/2/"	//	7
武満徹音楽討論⑰/中島健蔵	//	6
"/⑱/吉増剛造	//	7
作曲界の夜明け/松平頼則・園部三郎・中村洪介	//	6
ソビエトのピアノ教育の実態②/高山・野村	ムジカ	6
ピアノのひびきをめぐって/斎藤義孝	//	7
G・ゴールウェイ&吉田雅夫	音友	7
カルラ・フラッチ&北原秀晃(バレリーナ)	//	7
帰って来た井上道義	音友	6
藤原義江・音楽と生涯/佐藤美子・妹尾河童・中島健蔵	音現	7
・宮沢統一		
音楽家及び評伝		
ズーム・アップ/塩川悠子(バイオリニスト)	音友	6
"/土屋邦雄()	//	7
作曲家のティーン・タイム/石井 欽	//	6
"/端山貢明	//	7
藤原義江春秋七十八	//	6
コヴェント・ガーデンの林康子/高橋英郎	音現	6
私の若きピアニスト/ダニエル・ヴァルサーノ	//	6
ブルーーズとの出会い2/アントワヌ・ゴレア	//	6
追悼・矢代秋雄	音友・音現・ムジカ	6
音楽の生れる部屋/桑島すみれ・伊藤京子	音友	6・7
グラビア/林康子/シェリング/バウマン/シャフラン	音友	6
/カニングハム		
グラビア/カニングハム/近藤謙/リング他	音現	6
"/ヴァルサーノ/エッガーその他	ムジカ	6
"/世界バレエフェスティバル/アルゲリッチ/		
ゴールウェイ/ミュンヒンガーその他	音友	7
信時 潔伝抄6・7高橋 均	//	6・7
エロスと音楽/ウェーバー	音友	6
"/ワーグナーI	//	7
現代のピアニストたち/R・ベルマン/小石忠男	//	6
"/M・アルヘリッチ//	//	7
空間の疾走私のモーツァルト/飯田善国	音現	7
パリアッチニレオンカヴァッロ/オペラの周辺	//	6
カラヤンは後継者を探している—小沢が本命か?音現	6	
バイロイトの新演出, シェローへの期待	//	7
思い出のコンサート(1)ロシア演奏家の追憶	ムジカ	7
ペンデレツキとの出会い 5・6/エルハルト	音芸	6・7
評論		
音楽鳩派談義/悲しみと喜びと/中島健蔵	音友	6
"/新しさだけではだめ//	//	7
楽壇の眼/外人との他流試合を/横溝亮一	//	7
"/指揮者のお値段は高すぎる/木村英二	//	7

第1回音楽現代新人評論入選発表表(1)/オペラ, それまで, これから/小林公次, その他	音現	7
北国の友への手紙/ピアノの為の「バガテル」, あるいは「作品」の成立をめぐって/丸山桂介	ムジカ	6
現代中国の音楽事情/丹羽正明	音芸	7
現代メキシコ作曲界の現状/エドアルド・マータ	//	7
演奏会		
4月の音楽会批評	音友	6
私のきいた音楽会/読者の音楽会批評欄	//	6
6月のコンサート・ガイド	//	6
6月の演奏家と来日演奏家	//	6
才能教育が見事に開花/鈴木慎一喜寿祝賀演奏会	//	6
協奏曲にみる彼我の音楽性—4月のオーケストラ界/横溝亮一	音現	6
ロマンティックで幻想味豊かな岩崎セツ子—4月のピアノ界/中河原理	//	6
バイオリンを楽しむ人・シェリング—4月の室内楽界/丸山桂介	//	6
久しぶりのオペラ歌手・林康子—4月の声楽界	//	6
4・5月の東京・大阪音楽界	//	6・7
4月のピアノ演奏会より(東京)/横溝亮一	ムジカ	6
新人発掘の意義について(関西)渡辺 佐	//	6
5月の音楽会批評	音友	7
私のきいた音楽会/読者の音楽会批評欄	//	7
7月のコンサート・ガイド	//	7
7月の演奏家と来日演奏家	//	7
演奏会批評/官能的なぬくもりと豊かな芳香—アルゲリッチのラヴェル/堅牢な構築性を目指すミュンヒンガー/ロンパールの演出力その他	音友	7
5月のピアノ演奏会より(東京)	ムジカ	7
ピアノでにぎわった4~5月(関西)	//	7
演奏会批評	音芸	6・7
レコード		
6月のレコード・ガイド	音友	6
新譜ずいそう/ベルマン「超絶技巧練習曲」リスト	//	6
フルトヴェングラーの名盤/ベートーヴェン9	音現	6
新譜批評/再発盤コーナー/推せん・名曲&レコードコレクション20/来月新譜ニュース	音現	6・7
試聴室/ムソルグスキー・ピアノ作品集その他	ムジカ	6
7月のレコード・ガイド	音友	7
新譜ずいそう/ボーギーとベスその他	//	7
続録音の歴史とエピソード	//	6・7
試聴室/クライバーン「ロマンティック・コレ」	ムジカ	7
ひとつの音に世界を見ひとつの曲に自らを聞く	音芸	6・7
レコードによるピアノ名曲聴き比べ③/シューベルト		
幻想曲ハ長調作品15(さすらい人)/志鳥	ムジカ	6
"/⑤/ドビュッシー ベルガマスク組曲	//	7
ヴァイオリン協奏曲「ブラームス」/福永陽一郎	音現	7
その他		
わが音楽家への道「最終回」館野 泉	音友	6
ヨーロッパ通信/子午線上の仮睡12/松下真一	//	6
"/正論を吐く為には, いかにも勇気が要るか	//	7
アジター・マ・ノン・トロップ/黒沼ユリ子	//	6・7
楽壇半世紀史話\戦前の群小歌劇団/宮沢統一	//	6
"/終戦後の音楽界/	//	7
音楽の森の散策(24)/ランドフスカの生きた音楽風土	//	6・7
(25)/ランドフスカの現代音楽体験	ムジカ	6
ステレオ百科/ステレオのある部屋	音友	6
日本のピアノ\アトラス・ピアノ/泉 清	//	6
"/ジュベスター・ピアノ//	//	7
荻窪日記/畑中良輔	音現	6・7

新聞記事月録 —1976年5月16日～6月30日—

インタビュー

バレエは私自身の音楽／福田一雄(バレエ音楽の指揮者)
／橋秋子賞を受賞 サンタ 5/20
よろず相談引きうける／團伊玖磨(作曲家) // 5/22
仏語は歌にしにくくて／ジュラル・スゼー 毎日夕5/26
ペンデレツキ(作曲家)に聞く 読売夕 5/31
声のプロフィール／多芸が説得力生む友竹正則 サン 6/7
大の日本びいき／チモフェーモワ(ピアニスト)毎日6/11
自信は十分／岡村喬生「ボリス・ゴドゥノフ」主演 読売夕
独奏者の個性生かす／スーク・トリオ 毎日夕 6/16
音色豊かで楽しい楽器／吉原すみれ(マリンバ) //6/18
自作の絵と歌をドッキング／芦野宏(シャンソン)サンタ
日本フィルの4年／田辺稔氏に聞く 毎日夕 6/29

人物

ケンペ氏死去(独の偉大な指揮者) サンケイ 5/13
永山馨が「スペイン報告」歌曲の会 毎日夕 5/28
小沢征爾「ボリス・ゴドゥノフ」を振る 毎日夕 6/9
得意のフランス曲で／高野耀子リサイタル // 6/11
若杉弘が常任指揮者に／ケルン交響楽団 日経夕 6/17
吉原すみれがジョイント・リサイタル 読売夕 6/19
「最年少」とうたわれ／小泉和裕(指揮)帰国 朝日夕 6/23
盛岡夕美子がデビュー演奏(ピアニスト) 毎日夕 6/25
ワイセンベルク(ピアニスト) 今秋来日 // 6/29

演奏会評

明るく華やかだが／A・ロンバル指揮のストラスブール・フィルの演奏会(大阪国際フェスティバル)毎日夕5/19
明快・意志的な構成／ストラスブール・フィル読売夕5/19
甘い余韻がたっぷり／ホルヘ・ボレーのピアノ 朝日夕
才気ばしるが迫力／井上道義指揮・日フィル定期 読売夕
豊かな技巧に濃厚な個性／アルヘリッチ 毎日夕 5/28
弦を超える見事な技術／ゴールウェイ・フルート 読売夕
よく分かる音楽観／自作を指揮ペンデレツキ 朝日夕6/2
日本の曲にも関心／J・ゴールウェイ(フルート) サンタ
欧州で気吐く／小沢征爾・ボストン響巡業 日経夕 5/29
確とした表現若々しい動き／ペンデレツキ 読売夕 6/2
良くも悪くもかっ達／J・ゴールウェイ 朝日夕 6/5
響合成器の直接的な表現／ペンデレツキ 毎日夕 6/8
若々しさを失わぬ円熟／ジュラル・スゼー 毎日夕6/11
捨てがたい味わい持つ／トルーズ室内管弦 // 6/11
これからの人／カトリーヌ・コラル(ピアノ) // 6/11
スリリングな迫力／アルヘリッチ(ピアノ) 読売夕 6/12
湧き出る美しい泉／チモフェーモワ(ピアノ)毎日夕6/15
真の主演を好演／二期会オペラ合唱団 朝日夕 6/16
若い世代の“チャンピオン”／パールマンバイオ 毎日夕
豊かな個性かもし出す／カトリーヌ 朝日夕 6/19
オペラも非凡な小沢／二期会「ボリス・ゴドゥノフ」読夕
聞かせ演ぜられたオペラ／同上オペラ サンタ 6/21
民族衣装で／チェコ・ハンガリー少年少女合唱団毎夕6/22
自然さを持つ純粋な法悦境／スーク・トリオ // 6/22
見事なテクニク／パールマン(バイオリン)朝日夕6/23
期待に答えた「岡村ボリス」／二期会オペラ 毎日夕 6/23
声楽の奥の深さ、楽しさ／ジュラル・スゼー読売夕6/23
みずみずしく、豊かに／チモフェーモワ(ピアノ) 毎日夕
的確、ハーモニーも潤／労音合唱団「森の歌」朝日夕6/26
総じて女性が優勢／オペラ「オーリー伯爵」読売夕 6/29
納得させられるドビュッシー／遠山慶子 毎日夕 6/30

女性の本格的打楽器奏者／吉原すみれ // 6/30
やわらかな音に情趣／チモフェーモワ(ピアノ)朝日夕6/
演奏会案内
軍服姿で…／アレクサンドロ・ファンサンブル 朝日夕5/
会場ゆるがすボリューム // 毎日夕 5/18
六月のクラシック／スーク・トリオその他 毎日夕 6/2
秋のイタリア・オペラ公演／初演もの目立つ // 6/8
待たれる来日(ベルリン・イタリア歌劇団)／今秋 朝日夕

評論

音楽時評／本当の美の感覚もつ／チェロのジャンドロ
ピアノの才能ある井上直幸／遠山一行 毎日夕 6/21
音楽と民族と風土／藤井知昭 日経 5/21
現代中国の音楽人民奉仕の理想へ／丹羽正明 読夕 5/21
異色のミュージカル／「太平洋の幕明け」 日経 5/24
常識破りの作曲家／「広島犠牲への哀歌」 // 5/27
仏、音楽振興に本腰 // 5/29
2度と聴けない曲／バッハの無伴奏バルティータサンタ
天才モーツァルトの父／海老沢敏 毎日夕 6/1
オペラ研修所に期待 日経 6/3
沈黙破ってベルマン／ソ連のピアニスト // 6/5
音楽会場の経営難 // 6/8
出色の合唱音楽 // 6/10
チェコの音楽事情を見る／国が手厚く指導育成朝夕6/15
音楽時評／音楽の国際交流／遠山一行 毎日夕 6/16
音楽展望／環境改善に望み託す「日本人とオペラ」必要なのは根気と研究／吉田秀和 朝日夕 6/18
軌道に乗る「今日の音楽」／武満 徹 日経 6/19
現代音楽の浸透 // 6/21
パイロイト音楽祭 // 6/22
マンドリン 日経 6/28

レコード

5月の新譜／ベルマン登場「超絶技巧練習曲集」リスト
／「ピアノ三重奏曲第一」シューベルト他 サンタ 6/12
うわさのベルマン、ペールを脱ぐ／ボリーニ初のベート
ーヴェン「ピアノ・ソナタ30・31番」その他 読売夕 5/17
試験室／シューベルト「即興曲集」ブレンデル朝日夕5/18
元海軍々楽隊が栄光のレコード 読売夕 5/24
余技の域を超えて腕前／異色指揮ぞくぞくサンタ5/24
生活にとけ込む高雅さ／ミュンシュ・仏音楽集成 読夕5/
ストライサンド、クラシックに挑戦 毎日夕 6/7
地からわくように／フルトベングラー「悲愴」読夕 6/9
小説的で面白い交響詩「ドン・キホーテ」カラヤン 読夕6/
試験室／ブラームス「交響曲第一番」フルトベン朝夕6/15
日本初ロッシェニのオペラ「オーリー伯爵」 読売夕 6/21
ガン撲滅への支援「チャリティ盤」オペラ // 6/29
その他
東京の風クラシックの館 サン 5/17
東響鬼太鼓座相次ぎ渡米公演米建国200年 朝日夕 6/30
奏でて楽しチビッ子邦楽／雅楽クラブ、三和線クラブ、
箏曲クラブ 読売 5/19
心を持った男たち／バッハその他／中村紘子日経夕5/24
婦人と生活／幼児の音感教育／耳の発達大切 読売 5/26
平和に捧げん「ひめゆりの歌」／「鷲思樹の歌」 //夕 5/27
声高く…不自由なボクらの歌／千葉で発表会 毎日夕6/5
切実な思い追悼曲に／交通事故の友を悼み作曲 朝夕6/7
私の発言／祖国というもの／黒沼ユリ子(バイオ)毎日6/
婦人と生活／鈍感・音感・情感／音楽は楽しい 読売 6/9
// // // わらべ歌をとりもどそう // 6/23

ピアニストのためのピアノ ピアノのひびきをめぐって
ムジカ 7月号 話し手/斎藤義孝

一前略一ひびきというのは、ひとつの物理現象なのですが、物理的な測定手段ではとらえられないいろいろな心理的な効果をもったものですが、もっとつきつめていうと、彼らが歌いあげようとする音楽にどのようなピアノのひびきが必要かということはピアニストの創造行為であり、作曲家の様式と、演奏家の個人様式とのからみあいのなかでそのひびきの選択が行なわれるわけですが一略一大家たちのひびきというものに対する姿勢を一略一どんな風にお考えになりますか。

斎藤 一略一 多くのアーティストの最後は人格的な問題になってしまいますが、彼らのひびきの絶妙な色彩感、耳は勿論のこと肌で感じているということです。一略一そしてこのひびきを創るものにペダル問題もありますし、タッチの問題もあります。

一略一ダイアモンドのような光沢をもったひびきもあり、また、くすんだ上品な真珠の光沢を思わせるようなひびきもあります。どちらが良いかというような問題ではなく、それは楽器にもよりますし、演奏者のテクニックにもよります。一略一例えば、アメリカのオーケストラのひびきとウィーンのそれ、また、パリのオーケストラのひびきは、それぞれが持ち味があり特長がありますが、ピアニストの場合にもそういった、彼らの育った音楽的風土と、彼らの時代に大きな影響を与えられているのではないのでしょうか。一略一それからピアノのひびきというのは、演奏家の年齢にも関係があると思います。

一略一楽器が鳴るといふことと余韻があるといふことは別のことなのです。ややもすると、ジャンという音色のあるものを鳴る楽器だと考えがちです。プレールやエテールはそういう点で余韻があります。一略一それに比べて、一種の信仰にまでなっているような現在の一流銘柄のピアノでは音は出るけれどもハーモニーの乏しいものもあります。

一番おそろしいことは、余韻がないわりに音色だけ大きく聴えるピアノのひびきに耳が慣れてしまうことで、そうするとピアノ音楽を追究するという努力をあきらめてしまうことになりかねないのです。一後略一

アルゲリッヒとポリーニ/野村光一 音楽の友7月号

今年の上半期はわれわれピアノ愛好家たちにとって悦ぶべき年だった。(略)来日したのはアルゲリッヒとポリーニである。(以下2人の特長を羅列してみる。)

●アルゲリッヒ 以前にも優る順調な成長振り 速さはいっそう速さを加え 軽妙な指先きの打鍵も以前から鮮明だった音に柔軟さと明朗さと多様さとを あたかも真珠の玉が転り廻るにつれて、その光彩陸離たる色彩を柔和で優雅な融合にまで高め変容し すべてが融けあい 全体的和声のニュアンスに変貌 物凄腕前

●ポリーニ 音楽表現の幅広い 奥行の深い多様性 前より健康的に変化 美しい自然な弾き方をする超絶的な名手 シェーンベルクに驚歎すべき多彩な音色を与え あらゆる種類の音楽を理解して妥当に解し表現する幅の広さと奥行の深さ

婦人と生活 幼児の音感教育
耳の発達大切に

読売新聞 5/26

一略一まねることがとても盛んなのが幼児期の特徴だから、先生のまねをして歌い、楽器の音をききとって歌い、ということの繰り返しから入っていき、「ひく」ことにはあまり重きを置いていない。これは、幼児期は、指先の発達はまだまだだが、耳の感覚は一番発達する時期なので、この時をとらえ音楽の基礎を身につけさせるという同教室の考え方によるものだ。いわゆる絶対音感とは、おとなになってからでは無理だが、幼児期に訓練すれば身につくといわれる。一略一作曲家の芥川也寸志さんは「きらいな子どもにムリに押しつけたり、ましてや幼児期に劣等感を植えつけるのは「反教育」だ。音楽教育はうまくひける人間をつくるのではない。すばらしい人間——いきいきと生き、美しい音楽に感動し……そういう人間をつくるための教育です。」という。一略一また、家の中にいつも「音楽」がある場合とない場合ではずいぶず違います。先生に預けておけばいつかどうにかなるだろうというお母さんは困る。お母さんの協力なしには幼児に教えることはできませんから、一略一



心を打った男たち

日本経済新聞より

バッハ
ショパン
リスト/中村紘子

日本経済新聞 (5/24~5/26)

ピアノを弾くのは確かに自己を表現する方法だけれどそれは当然、すばらしい曲を創り出した天才たちへの尊敬や愛情の表現でもある。一略一まず、「音楽の父」バッハ。彼が、その私生活においてきわめて地味で、20人も子供を作ったことから、ッパは「マイホームパパ」であった、という説があるけれど、実はどうなのだろう。私には、問題は、その20人の子供のうち13人を亡くしているところにあるように思われる。一略一

私が演奏会で最も多くひくのはショパンとリストである。この2人、人となりはショパンの柔、リストの剛、と一般的には受け止められている。そういう面もたしかにあるけれど、私にはこの正反対の2人に、奇妙に共通した男らしさを認めざるを得ない。一略一1836年ショパンはリストの紹介で女流作家ジョルジュ・サンドと恋愛をし、同棲をするようになる。書物によれば、サンドは男まさりで鉄火肌の姐御とされており、一風変わった女性だったらしい。こんな女性と一緒になればつづけてしまう人が多い。一略一ところがどうして、ショパンはサンドとの同棲の間に、「スケルツォ」等大変な傑作を残している。一略一私にはショパンこそ男性的な血の持ち主というイメージが強い。一略一リストは(略)まさに男の中の男と言って過言ではない。一略一ショパンの繊細さに比べ、あらゆる面でスーパーマンであったが故に、リストは力で書いていると一般には思われている。しかし、彼は基礎訓練に1日5~6時間を費やし、練習時間が14時間に及んだこともしばしばあったという。一略一